

ヒロハノアマナ	<i>Amana erythronioides</i> (Baker) D.Y.Tan et D.Y.Hong	絶滅危惧 I 類
(環境省:絶滅危惧 II 類)		ユリ科
選定理由	個体数が僅かで、個体群の存続が危うい。	写真(高橋弘)
形態の特徴	根出葉は長さ10-15cm、幅10-20mm、緑色か暗紫色を帯び、中肋沿いに白い縞模様がある。花茎は高さ10-20cm、普通3枚の苞様の葉が輪生状につき、先端に1個の花がつく。花被片は披針形、長さ15-20mm、幅5-7mm、白色、外面の脈に沿って紫色の細い線があり、内面の基部に黄緑色の斑紋がある。	
生態的特徴	主に林縁や草地に生育し、時に林床にも生育する。花期は3-4月。	
分布状況	日本に固有で、本州と四国に分布する。岐阜県では西濃地方に見られる。	
減少要因	開発による生育地の消滅と、栽培のための採取による。	
保全対策	生育地の保全と採取の禁止。	
特記事項	3ヶ所で記録があるが、その内の1ヶ所は現状不明。小型の植物で花がないと分かりにくいので、生育調査の際は細心の注意が必要。	
参考文献		

文責:高橋弘